

彙 報

第 66 回日本言語学会大会

国際基督教大学において、昭和 47 年 5 月 27 日公開講演及び会員総会、28 日研究発表を開催。

1. 公開講演

盲ろう二重障害者の言語行動の形成 梅 津 八 三

2. 研究発表

題目及び発表者は 91 頁以降参照

第 67 回日本言語学会大会

関西外国語大学において、昭和 47 年 11 月 11 日公開講演、12 日研究発表を開催。

1. 公開講演

音響音声学の最近の動向 藤 村 靖

比較表現論の試み 椹 垣 実

2. 研究発表

モンゴル語に於けるいくつかの副動詞の構成に就いて 池 田 哲 郎

否定文は何処から来るか 西 光 義 弘

生成文法に於ける評価方法について 清 水 克 正

複合時制の発達——ヨーロッパの Sprachbund 下 宮 忠 雄

スペイン語の Rehilamiento の音声的実体 原 誠

Harald Weinrich の言語理論 平 川 信 弘

類聚名義抄と南洋語の関連 菊 沢 季 生

第 26 回九学会連合大会

昭和 47 年 5 月 21 日東京芸術大学にて開催。「共同課題」は「沖縄の自然・社会・文化に関する総合研究」。本会からは、日下部文夫・柴田 武・加藤正信・大城 健の諸氏による共同研究を日下部氏が口頭発表、中本正智氏が司会。

昭和 47 年度第 1 回常任委員会

日 時：昭和 47 年 4 月 3 日

場 所：学士会館本郷分館

出席者：高津春繁，河野六郎，川本茂雄，国広哲弥，長谷川欣佑；
竹内公誠（幹事），大河君代（囑託）

議 事：1) 第 66 回大会の細目について協議した。
2) 年会費の改定に伴ない『言語研究』の市販分の定価を今年度より 1,000 円とすることとした。

昭和 47 年度第 1 回委員会

日 時：昭和 47 年 5 月 27 日

場 所：国際基督教大学

出席者：（ ）内は委任状受託者

今川太郎，小沢重男，金田一春彦，日下部文夫（1），国広哲弥，高津春繁（10），河野六郎（1），小林英夫，佐藤 孝，徳川宗賢，徳永康元，西田龍雄，野上素一，長谷川欣佑（1），長谷川松治，蛭沼寿雄，松田伊作，松本克己。オブザーバーとして江 実，服部四郎両評議員，[白紙委任 2 名，委員総数 40 名]；竹内公誠（幹事），茂木悠子（囑託）

議 事：1) 第 66 回大会の運営，役務分担について協議した。
2) 秋の大会（第 67 回）の開催を関西外国語大学に依頼し受諾された旨，報告があった。
3) 可能性検討委員会委員長江 実氏および同委員服部四郎氏（CIPL—Comité International Permanent des Linguistes—実行委員）より，同委員会でのこれまでの審議の経過について説明があり，47 年 3 月 29 日の会合で，「CIPL 委員としての服部四郎氏の見通しに基づいて 1977 年の国際言語学者会議に関して 財政的，事務的等の点で 日本での開催の見込みがあるという結論に達した」旨報告があった。
当初は国際会議を招致するとすれば日本言語学会が中心となるものと考えられていたが，服部氏の説明によって，国際会議の

組織委員会が日本言語学会とは別個のものであることが明らかにされた。日本言語学会としては適宜援助をすることとなった。なお可能性検討委員会は、任務を果たしたものとして、これをもって解散することとした。

- 4) 昭和 48 年度から大会の開催を年一度とする（但し、状況によって年二度とする含みをもつ）こととした。
- 5) 文科系学会連合が解散した旨、徳永康元、西田龍雄両委員より報告があった。
- 6) 昭和 46 年度会計報告（別記）を行なった。

昭和 47 年度第 2 回常任委員会

日 時：昭和 47 年 7 月 12 日

場 所：学士会館本郷分館

出席者：高津春繁、河野六郎、国広哲弥、長谷川欣佑；竹内公誠（幹事）、
藤井寧子（囑託）

議 事：1) 第 67 回大会について次のように決定した。

場 所：関西外国語大学

日 時：11 月 11 日（土）、12 日（日）

研究発表応募締切：9 月 10 日

- 2) 会長制について

かねて問題になっていた会長制存続の件が討議された。従来のような会長制を廃止するか、または委員長即会長とするかという二つの可能性が検討されたが結論は出なかった。

- 3) 次期東洋学研究連絡委員会委員として河野六郎氏を推薦することとし、同氏の受諾を得た。

- ◇ 本会評議員・委員長高津春繁氏、会員椋垣 実氏は昭和 47 年 11 月 8 日紫綬褒章を受章されました。
- ◇ 本会評議員服部四郎氏は昭和 47 年 11 月 13 日日本学士院会員となりました。
- ◇ 昭和 47 年 6 月より、本会事務囑託は藤井寧子氏に変わりました（出勤日は

火 (10 : 00 ~ 16 : 30), 木 (10 : 00 ~ 15 : 30)]。

昭和 46 年度会計報告

収入

前期繰越	9,872
会費(現金)	346,928
(振替)	867,250
雑誌売上	200,800
補助金	110,000
利息	1,061
寄付金	0

1,535,911

残高 1,381

支出

刊行経費	837,206
発送料	55,780
大会関係費	94,660
通信費	58,562
事務用品費	31,066
九学会連合会費	10,000
文科系学会連合会費	5,000
C I P L 会費	32,070
雑費	410,186

1,534,530

◇ 本誌は文部省昭和47年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものです。